

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

November
ISSUE



November 2025
Volume 161

新島 襄の横顔～同志社 150 周年に添えて～

朝夕ずいぶんと涼しくなり、立っているだけでも汗のにじむ猛暑が嘘のような涼しい季節になりました。北海道では初冠雪のニュースも流れ、あっという間に寒さが骨身にしみる冬が来そうです。

さて、今月 11 月 29 日は、同志社が設立されてから 150 周年目にあたる記念すべき日です。もともと英学校として 8 名の生徒で出発した同志社も、今では学部生 26,853 人の生徒を抱える大きな大学となりました（2025 年 5 月 1 日現在）。

新島襄は大学設立当時、幼稚園から総合大学までである一貫校を作りたいとの構想を持っていましたが、その完成に 200 年かかるとの指標を持っていました。「150 周年」との数字に「すごい時間だな。」「伝統のある学校だな。」との印象を受けますが、新島襄から見ると、まだ完成までに残り 50 年あるということになります。スペインの「サグラダファミリア」のように、ガウディの亡き後様々な人々が彼の遺志を継ぎ、試行錯誤して建設を続けているエピソードと重なります。50 年後の同志社はどのように完成年度を迎えているのでしょうか。夢は膨らみます。

さて、本日は児童にも伝えている、新島襄の横顔を少しご紹介したいのです。新島襄と言えば同志社大学の設立者。皆様の中には、幕末から明治にかけて生きた武士出身の彼への堅いイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。しかし、伝わりくる新島のエピソードを聞くと、中には思わず笑ってしまうお話もあり、きっと親しみを持っていただけたらと思うのです。

例えば新島襄の好きな食べ物、皆様は何だと思

いますか。新島はアメリカからの帰国後すぐ、その食べ物を 6 杯も食べたそうです。また、この食べ物の早食いで学生と競い合ったとのエピソードも残っています。大みそかに長寿を願って食べるもの、と言えましょうお分かりですね。「そば」です。同志社では 11 月 29 日の創立記念日と 1 月 23 日の召天日、新島襄が眠る若王子の同志社墓地で礼拝を行うのですが、終了後に下山すると、若王子神社の敷地でそばとうどんがふるまわれます。「そば」が含まれているのは、彼の好物だからなのです。

また、ペットとしてビーグル犬を飼っており、「弁慶」と名付けていました。この弁慶、今では「Ben-K」として同志社のマスコットになっています。

彼の学生時代のお話ですが、まさかの授業中だったのでしょうか、数字の 6 の丸い箇所を人の顔に見立て、その上の線をちょんまげとして、落書きをしていたこともあります。思わず笑ってしまうイラストなのですが、以前同志社ギャラリーで展示されたこともあるそうですので、機会があれば是非ご覧いただければと存じます。

このようなお話をしていると新島先生に叱られそうですので、そろそろおしまいになりたいと思います。

同志社 150 周年を祝うとともに、創立 200 周年に向けての第一歩を、子どもたちとともにしっかりと踏みしめていきたいと存じます。

参考文献：「(新島襄を語る 2) 一人は大切」本井康博

「襄のそば好き(八重の証言)」同志社女子大学

https://www.dwc.doshisha.ac.jp/research/faculty_column/2013-09-06-10-55

副校長 ロハス 亜紀



キリスト教教育

11 月：感謝 November: Gratitude

聖書：「イスラエルよ、あなたは聞いて、守り行いなさい。そうすれば幸せになり、あなたの先祖の神、主が告げられたとおり、乳と蜜の流れる地であなたがたは大いに増える。」

申命記 6 章 3 節（聖書協会共同訳）

上掲の聖書箇所中「乳と蜜の流れる地」というのは、牛や羊や山羊などの牧畜に適し、また当地の特産物「なつめやし」（デーツ）の糖蜜に代表されるように、人間の食生活を豊かにする農業にも適した肥沃な土地であることを意味します。けれども正直に申しますと、この聖書の箇所を初めて見た時の筆者の感想は「いかにも美味しそうな表現。」であると同時に、「昔は今ほど美味しい食材が無かったので、動物の乳と自然から採れる糖蜜ぐらいいか御馳走の表現が思い浮かばなかったのだろう。」というものでした。しかしながら、この認識が誤りであったことを思い知ったのは、意外な場所でした。

9 月の半ばに 6 年生の修学旅行が行われ、引率教員の一人として同行しました。行き先は広島と熊本でしたが、今年新たに加わった訪問先として、「阿蘇ミルク牧場」がありました。ここで本校児童は「ミルクアイスづくり体験」をさせてもらったのです。材料は、牧場で 3 種の牛から搾りたてをブレンドした濃厚な牛乳と生クリーム、盛り上がった新鮮な卵黄、そしてグラニュー糖のみです。これらの材料を全て混ぜ合わせて金属製のボールに入れ、少し大きめの別のボールの中に入った氷と塩の上で、理科の実験よろしく根気よくかき混ぜるのです。そうするうちに中の材料がいつのまにか固まってきて、ボールの壁にへばりつくようになります。それをヘラでこそげ落としながらなおもかき混ぜつづけると、やがて全体が固体になってきます。各自コーンが配られ、ヘラで中身を盛り付けると、立派な「手作りミルクアイス」の出来上がりです。

同じく引率で修学旅行に来ていた副校長の R 先生と二人で、M さんの手順を興味津々凝視していました。いかにも美味しそうに盛り付けられた出来立てのミルクアスを羨望の眼差しで見つめていたところ、M さんは最初の貴重な作品を「はい。」と私たちの方へ差し出してくれたのです。なんて優しいのでしょうか！もちろん、大喜びで R 先生と半分ずつ頂きました。そして一口食べた瞬間、心地よい冷たさととろけんばかりの甘味が舌の上に広がりました。「これが本物のアイスクリームだ。」と、目が覚めるような思いでした。

思えば旧約聖書の時代の人々は、乳製品や農作物の本当の美味しさを知っていたのです。その究極の美味しさを知っていたからこそ、神の恵みと祝福を表す土地に「乳と蜜の流れる地」と名付けたのでしょう。



Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓

左写真：アイスクリーム作りの様子

中・右写真：別室ではりんご果汁のシャーベットも作った。

<お知らせ>

○10 月 31 日（金）収穫感謝礼拝

米一合を持ち寄って、日頃神さまから受けている多くの恵みに感謝する礼拝を行いました。集まった米は日本バプテスト京都教会内「京都寄り添いネット」と大阪釜ヶ崎「いこいの家」を通して、生活に困窮しておられる方々の元へ届けられます。

○11 月 1 日（土）きずな祭「聖書の会」ブース

Music1 前の廊下にて「聖書の会」のブースが設けられます。今年度はバングラディッシュの小物や「同志社・新島かるた」、イラスト・クラフトクラブ部員の児童らが制作したバースデーカードなどが並びます。

収益は全て、「おにぎり献金」の一部になります。

○11 月 11 日（火）おにぎり献金

国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）

海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」・「ミャンマー地震緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持ちください。

○11 月 21 日（金）クリスマス点灯式（夕刻より）

・点灯式礼拝：チャペル（児童・教職員のみ参加）

・点灯式：正門外（児童・教職員・1 年生保護者のみ参加）

※一部 SG を除き、他学年の保護者に駐車券は出ません。行事の詳細は学校からのお手紙をご覧ください。

3年生 UNIT 3 「How We Express Ourselves」

「表現すること、つながること——川上村での学び」

3年生は9月10日から12日の2泊3日で川上村へ校外学習に行ってきました。今回の学びのテーマは「How we express ourselves (私たちはどのように自己を表現するのか)」です。自然に囲まれた環境の中で、様々な方法を通して自分の思いや感じたことを表現する体験を重ねました。



匠の村では、アーティストの方のアトリエを訪れ技法や暮らしの中にどのようにアートが溶け込んでいるのかなどのお話を聞かせていただいたり、水墨画や木材を使ったお面づくりに挑戦したりしました。水墨画では習字を習っていない子どもが多い中、墨の濃淡や筆の運び方などを知ることができました。また、人間国宝の方が一枚一枚丁寧に作ってくださった紙を使用させていただき、緊張しながらも集中して水墨画を描いていました。お面づくりでは、言葉では伝えきれない感情や思いを形にする楽しさを味わいました。また、一眼レフカメラを使った写真撮影では、子どもたちは見る角度や光の当たり方によって変わる風景の美しさに驚き、シャッターを切るたびに表情を輝かせていました。



ダムの見学や森と水の源流館では、水がどのように使われ、私たちの暮らしを支えているのかを学びました。「森から海へ、海から森へ」という自然のつながりについてのお話から、水や自然の大切さを実感することができました。



さらに、2泊3日の共同生活を通して、友だちとの関わりや助け合いの尊さを身をもって学び、子どもたちは自分の思いを伝えること、相手の思いを受けとめること、その両方の大切さを実感しました。

今回の体験を通して、表現することの意味や、自然や人との「つながり」を心に刻むことのできた宿泊学習でした。これらの経験を DIA に持ち帰りより豊かな人間となれるようさらに学びを深めたいと思います。





Essential Components of Learning: Agency and the PYP Framework

Hello everyone,

We've previously discussed the Learner Profile and the Transdisciplinary Themes. This month, we unpack the essential components that form the learning blueprint for every unit of inquiry. The entire framework is driven by the central principle of Agency- the belief that students have the voice, choice, and ownership to influence their own learning.

1. Knowledge (What We Learn)

This is the specific content associated with subjects- the relevant information needed to understand the unit's central idea. In our school, the Japanese National Curriculum forms the base of this knowledge.

In practice: Students learn about the characteristics of forces only as it directly relates to understanding a central inquiry question, not as isolated facts.

2. Concepts (What We Want to Understand)

Concepts are powerful, abstract ideas (like Change, Function, and Connection) that act as a lens, helping students find patterns and build deep, transferable understanding across subjects.

In practice: When learning about the Silk Route, students apply the concept of Connection to analyze the exchange of ideas and technologies between different societies.

3. Skills (What We Want to Be Able to Do)

These are the capabilities students develop and apply throughout the learning process. The PYP emphasizes broad Approaches to Learning (ATL) Skills, which are vital for success both in and out of the classroom, including Thinking, Research, Communication, Social, and Self-Management.

4. Learner Profile (Who We Want to Be)

This element focuses on who we are learning to become. The attributes of the Learner Profile (such as Principled, Caring, and Inquirers) are the essential dispositions and values we encourage to foster an ethical learning environment.

In practice: A teacher specifically praises a student for being Principled when citing their research sources, reinforcing ethical development.

5. Action (How We Act)

Action is the visible evidence of deep learning. When inspired by their inquiry, students move beyond the classroom to make a difference- whether by adjusting their behavior, informing others, or advocating for a cause.

In practice: After learning about local ecosystems, a class takes Action by organizing a school recycling program.

By focusing on these five integrated components and grounding all of them in student Agency, we are developing critical thinkers prepared to act in the world.

Sincerely,

Chris Elsdon, PYP Coordinator

学びの重要な要素：エージェンシーと PYP フレームワーク

皆さんへ

これまでに「学習者の姿 (Learner Profile)」と「教科の枠を超えたテーマ (Transdisciplinary Themes)」についてお話してきました。今月は、すべての探究の単位 (Unit of Inquiry) の学びの設計図を構成する重要な要素を取り上げます。

PYP 全体のフレームワークは「エージェンシー (Agency)」という中心的な原則に基づいています。これは、「生徒が自分の学びに対して声 (voice) を持ち、選択 (choice) し、主体的に関与する (ownership)」という考え方です。

1. 知識 (What We Learn/何を学ぶか)

これは教科に関連する具体的な内容であり、単元の中心となるアイデア (Central Idea) を理解するために必要な情報です。本校では、日本の学習指導要領がこの知識の基盤となっています。

実践例：生徒は「力の特徴」について、単なる事実として学ぶのではなく、「探究の中心的な問い」を理解するために学びます。

2. コンセプト (What We Want to Understand/何を理解したいか)

コンセプトとは「変化 (Change)」「機能 (Function)」「つながり (Connection)」のような抽象的で強力なアイデアのことです。これらはレンズのような役割を果たし、児童がパターンを見つけ、教科を超えて深く、応用可能な理解を築く手助けをします。

実践例：シルクロードを学ぶ際、児童は「つながり (Connection)」というコンセプトを用いて、異なる社会間での技術やアイデアの交流を分析します。

3. スキル (What We Want to Be Able to Do/何ができるようになりたいか)

スキルとは、児童が学習の過程で身につけ、活用していく力のことです。PYP では、「学びに向かう姿勢 (Approaches to Learning/ATL スキル)」を重視しており、これは教室の内外での成功に欠かせません。これには、「思考スキル (Thinking)」「リサーチスキル (Research)」「コミュニケーションスキル (Communication)」「社会スキル (Social)」「自己管理スキル (Self-Management)」が含まれます。

4. 学習者の姿 (Learner Profile/どんな人になりたいか)

この要素は「私たちはどんな人間を目指して学んでいるのか」という問いに焦点を当てています。

「誠実 (Principled)」「思いやり (Caring)」「探究者 (Inquirers)」などの学習者像の属性は、倫理的で健全な学びの環境を育てるために大切にする価値観と態度です。

実践例：教師が、児童が調べた情報源を適切に引用した際に「誠実 (Principled)」であることを称賛し、倫理的な成長を促します。

5. 行動 (Action/どのように行動するか)

「行動」は、深い学びの目に見える証拠です。探究を通して生徒が刺激を受け、学びを超えて行動に移すとき、それは「行動 (Action)」となります。その形は、自分の行動を変えること、人々に知らせること、または社会的な課題に働きかけることなど、さまざまです。

実践例：地域の生態系について学んだ後、クラスが学校内でリサイクル活動を企画・実施します。

これら 5 つの要素を統合的に捉え、すべてを児童のエージェンシーに根ざして展開することで、私たちは「考える力を持ち、世界の中で行動できる学習者」を育てていきます。

心を込めて

クリス・エルズドン

PYP コーディネーター



おしらせ

お菓子の科学

11月11日はポッキーの日だそうです。今月はお菓子にちなんで DIA ならではの「科学」要素をふくんだお菓子レシピ本を紹介いたします。ご家庭でも、学びながらお菓子づくりを楽しんではいかがでしょうか。

『おいしい！がわかる 小学生からのお菓子の科学』

木村万紀子 著 出版社：柴田書店



菓子づくりは台所でできる科学実験！！著者は、辻調理師専門学校で調理科学を教えるかたわら、4歳からの子どもに調理の「なぜ？」を解説するお菓子・料理教室「キッズ・サイエンス・クッキング」を主宰！本書では「琥珀糖」「ロックキャンディ」など、教室で人気のお菓子を中心に、プリン、クッキー、シュークリームなどの定番菓子も収録。

『ふしぎなグミ実験室—作って食べて科学のナゾをおいしく解き明かす！』グミラボ編集室【著】 メイツバーサルコンテンツ



* どうしてグミはかたまの？
* 色や味はどうやってつけるの？
グミはふしぎなおかし。きれいな色やおもしろい形があって、かむとかたかったりぷにぷにしていたり。じつは理科で習うことがたくさん使われているんだ！おもしろくておいしい実験室でいっしょにグミを作ってみよう！

『おいしい！ふしぎ！理科実験スイーツ こおる・わかるひんやりスイーツ』Will こども知育研究所 著 金の星社



冷やしたりこおらせたりする実験をしながら、スイーツが完成。子どもでも飲めちゃう「こどもビール」や、パーティーにぴったりな「ジャンボプリン」などの見たことないメニューに、びっくりすることまちがいない！氷に塩を加えて凍らすアイスクリームなど、温度や化学反応の変化に注目した「ひと味違う」お菓子づくりが楽しめるレシピ集！全3刊シリーズ

11月の主な行事・予定

11月12日～11月14日 G5 宿泊学習

1	土	きずな祭
2	日	
3	月	文化の日
4	火	Unit 4 (week 4)
5	水	ピアソンテスト、クラブ活動
6	木	ピアソンテスト
7	金	ピアソンテスト
8	土	
9	日	
10	月	Unit 4 (week 5)、ピアソンテスト
11	火	ピアソンテスト
12	水	G5 宿泊学習、ピアソンテスト
13	木	G5 宿泊学習、G6 国際中推薦入試
14	金	G5 宿泊学習
15	土	
16	日	
17	月	Buffer week
18	火	
19	水	委員会活動
20	木	
21	金	点灯式
22	土	
23	日	勤労感謝の日
24	月	振替休日
25	火	Unit 5 (week 1)
26	水	クラブ活動、学期報告会～12/3
27	木	
28	金	同志社創立記念礼拝
29	土	創立記念日(150周年)
30	日	

12月の主な行事・予定

12/2 (火)	私小連研修会(午前授業)
12/5 (金)	クリスマスページェント
12/10 (水)	SPT カンファレンス(午前授業)
～12/16 (火)	
12/17 (水)	午前授業
12/18 (木)	午前授業
12/19 (金)	終業礼拝(午前授業)